

令和7年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間)・最終)

昭和北中学校区 校番 25 学校名 昭和北小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
*** 確かな学力	・基礎的・基本的な学力の定着を図り、主体的に学習に取り組む児童を育成する。	○昭和北中学校区の目指す資質・能力を育成する。	・学期末テストで80%を上回った児童は、国語科、算数科共に目標値を達成することができなかった。特に算数科はどの学年も目標値を達成することができなかった。「思考力・判断力・表現力」はほとんどの学年が30%で、極めて低い。 ・国語科では、1、2年生のみ目標値を達成できた。算数科の思・判・表は、ほとんどの学年が30%で極めて低い。 ・漢字の学習は何度も書かせることが大切。キュビナだけでは不十分である。 ・授業では、児童に見通しをもたせる手立てができていた。また、学習方法に選択肢があったことで、学習意欲につながった。	・国語科では、プリントやノートで漢字を書く場を増やす。 ・算数の思・判・表の改善策では、キュビナの文章問題に取り組み、定着を図る。 ・授業では、考えたくなる問いを設定していき、導入の充実を図る。また、相手を大切にできるようにSEL8Sの授業を生かし、話をしっかり聞ける児童を増やす。
** 豊かな心	・児童の自己指導能力を育成する。	○自らを生かし、共によりよく生きようとする児童を育成する。	・不登校児童の割合は、0.77%だった。昨年度の上半期の数値と同程度だった。 ・SSRが開設されたことで、出席日数が増えている児童も数名いる。 ・子どもまんなか会議①②③を定期的に行い、欠席が重なっている児童を早めに把握するようにしている。 ・アンケート結果は、92%と大幅に目標を達成した。 ・昨年度から継続している笑顔貯金によって、他者から評価してもらい機会や、他者によりよく関わろうとする機会が増えている。笑顔貯金があることで、友達のよい所に目を向けようとする児童も増えてきている。	・現段階で欠席日数が多い児童について、積極的にカウンセラーにつないだり、SSRへ登校できるように働き掛けたりする。 ・子どもまんなか会議やスクールカウンセラーのアドバイスを参考に、複数で対応をすすめていく。 ・2学期、3学期も継続して笑顔貯金に取り組む。 ・笑顔貯金が機械的な作業とならないよう、SEL-8Sの授業と関連させ、児童の意欲を維持させる。 ・よい言葉掛けが出来ている児童を紹介するなどして、よりよい声掛けができる児童を増やす。
* 健やかな心	・防災・健康安全・体力づくりへの意欲を高める。	○自分の命は自分で守る力を育成する。	・災害時の避難場所や避難経路について理解している児童は目標値を達成した。自宅からの避難場所や避難経路について全児童が理解しておくことが必要である。 ・危機管理課や消防署、地域の自主防災の方等と連携しながら取り組んでいくようにする。 ・避難訓練の振り返りの充実やマイタイムラインの活用が児童の防災への意識づけになったと感じる。 ・気温上昇のため、外遊びや外体育の減少により運動機会が減っている。体育の授業において、運動機会を多く設けるだけでなく、体の使い方を見直したり、分析したりして考えて取り組む機会を増やすことで体力向上を図る必要がある。	・防災フェスティバルに向けて、防災学習の計画を立てて防災学習を計画的に進めていく。 ・実践的な避難訓練の実施、振り返りを引き続き行う。 ・防災に対する知識や意識を高めるために、教科横断的な防災教育を推進していくとともに、地域の方や関係機関と連携しながら全校で防災について学ぶ場を創る。(北小防災フェスティバル) ・呉チャレンジマッチの継続や夏休みパワーアップカードによる体力向上を図る。 ・「走り方教室」を行うための外部指導者を派遣予定。
業務改善	・持続可能な教育環境の整備	○児童と向き合う時間を確保する。 ○長時間勤務の削減を図る。	・校務分掌など複雑に分かれていたり、分かりにくいところもあり、うまく組織が機能していないこともあった。 ・一部の教職員に負担が多くかかっていたので、仕事の分担をしていく必要がある。	職員に行事ややるべき仕事について早めに周知し、見通しをもって自ら進んで仕事に取り組むことができるようにする。 ・入退校の記録を個人に配付したり、毎日の退校時刻を掲示したりするなど、定時退校を促す。